

防災学習会 実施報告

実施日：2025年12月11日

会 場：京都市立近衛中学校

講 師：左京区保護司 高橋 秀紀

2025年12月11日、京都市立近衛中学校において実施された避難訓練にあわせ、防災学習会の講師として全校生徒を対象に約20分間の講話を行いました。

講話では、これまで私自身が災害ボランティアとして被災地に関わってきた経験をもとに、災害の現実と命の尊さについてお話ししました。

はじめに、約30年前に発生した阪神・淡路大震災の際、神戸市東灘区において給水車による給水ボランティアに参加した経験を紹介しました。寒さの厳しい中、水を求めて列に並ぶ被災者の方々に水を手渡すことで、水一杯の重みと、当たり前の日常が失われた状況を強く実感したことを伝えました。

次に、東日本大震災における災害ボランティア活動についてお話ししました。各家庭から出る大量の災害廃棄物の仕分け作業を通じて、地震と津波によって日常の生活が一瞬にして失われる現実を目の当たりにしました。特に、泥にまみれ捨てられていた赤いランドセルの光景が強く心に残り、命の尊さを深く考えるきっかけとなったことを生徒たちに伝えました。

さらに、能登方面で発生した地震について、実際に被災された方から地震直後の輪島の様子を直接伺った経験を紹介しました。復興にはまだ長い時間が必要であることや、被災直後の恐怖と現状を知ること、生きていることの意味や、人とのつながりの大切さを改めて感じたことをお話ししました。

講話のまとめとして、生徒の皆さんには、命の大切さ、物の価値よりも人とのつながりを大切にすること、そして普通に暮らせることへの感謝を忘れずに過ごしてほしいと伝えました。また、事件・事故・犯罪などによって後悔する人生を送ることなく、自分にしかできないことを見つけ、喜びの多い人生を歩んでほしいという思いを、保護司としての願いとしてお話ししました。

今回の防災学習会が、生徒一人ひとりにとって、防災への意識を高めるとともに、命や日常の尊さについて考える契機となれば幸いです。

以上、報告いたします。